

文化財への道

2018・3 横浜開拓の先駆者 吉田勘兵衛 (②西田芦衛門重次)

能勢吉野に住む波多野宗春に、慶長16年(1611年)、男の子が生まれました。良信(のちの吉田勘兵衛)です。ところが、元和7年(1621年)春、宗春と母があいついで病気で亡くなり、良信は11歳でみなしごになってしまいました。

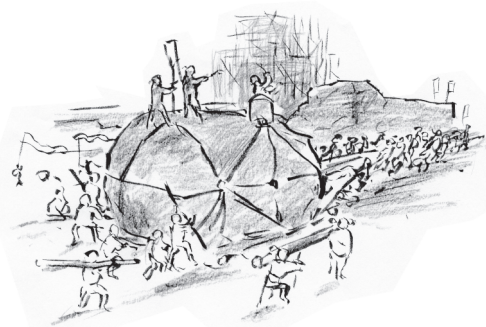
その年の正月、駿府城から久しぶりに能勢に帰って三草山で狩りを楽しんでいた頼次は、病に襲われて3日3晩意識不明の重体になりました。奇跡的に助かったものの、7月、息子たちに家督を譲り隠居の身となることを決めます。次男頼隆には吉野・倉垣を分知しました。この時、頼隆の家臣で倉垣の代官嘉村の西田家が、「宗春さまの忘れ形見良信さまは、私どもが立派にお育ていたしましょう」と、頼次の従兄弟にあたる良信を引き取ったのです。倉垣の代官嘉村の西田家は、本家である吉良家が武士として能勢家に仕え、あとの西田3兄弟は分家をして農民となっていました。良信は、西田芦衛門重次となり、木材の商いをおぼえます。

徳川幕府による大坂城の再建には、西国の64もの大名が携わっていました。頼次の三女福の夫余野広安は、能勢家の娘婿能勢頼清として、黒田官兵衛の孫の黒田忠之に仕えていました。忠之が大坂城再建第三期工事(1628～)で南外堀の石垣普請を任されていました。

「重次、大坂に出よう。大坂は新しい町づくりで大にぎわいだ。」と、育ての親が言いました。重次は、能勢家との縁で石材の仕事にも携わり、木材と石材を扱うな

にわ商人として腕と志を磨き、たくましく成長したのです。大坂城の完成を見とどけた重次は、寛永11年(1634年)、24歳で、能勢家を頼り江戸に出ます。(つづく)

◎歴史探索講座で「吉田勘兵衛と吉田新田について」を開催します。詳しくはP5をご覧ください。



CONTENTS

◇まちのわだい	2	◇福祉・みんなの広場	11
◇まちのわだい・お知らせ	3	◇健康・子育て	12
◇お知らせ・募集	4・5	◇子育て	13
◇環境	6・7	◇スポーツ	14
◇税・保険・年金	8	◇生涯学習センター	15
◇福祉	9・10	◇浄るりシアター	16・17

人の動き [2月1日現在]

() 内は前月比

人	口	10,375 (-15)
	男性	5,019 (-2)
	女性	5,356 (-13)
世帯数		4,571 (-2)
転入		21 (-12)
転出		28 (+7)
出生		5 (+3)
死亡		13 (+3)

1月中の交通事故発生状況

種別	能勢町	豊能町	合計
人身事故	1件	2件	3件
程度	死亡	0人	0人
	重傷	0人	0人
	軽傷	1人	6人
物損事故	25件	18件	43件
総件数	26件	20件	46件